

ユニバーサル便り

～ユニバーサル農業の実践を通じた地域の中の農福連携～

発行：風の森ファーム&ユニバーサル農業研究会@ふくろい

1. そだてる助成の活動が始まりました！

2020年4月からトヨタ財団による『そだてる助成』の活動が始まりました。活動の目的は、地域との関わりを深めながらユニバーサル農業を実践して、地域と連携して地域の農業と福祉を地域全体で支え合っていくしくみ作りを行うことです。主な活動内容は、ブドウやシイタケの栽培と販売、藍の栽培と藍染め製品の製作と販売等です。

2. 藍の栽培と藍染め体験会の開催

8月18日、風の森にて法人なごみかぜのスタッフを対象に、藍染め体験会を実施しました。また利用者さんは、収穫した藍の葉のもぎり等を行いました。体験会ではTシャツ、エコバッグ、マスク、さらし布、デニム製スカート等の藍染めをしました。これに続いて8月30日には地域の人たちを招待して、磐田市在住の寺田正春さんを講師として2回目の体験会を行いました。今後は地域の人たちに、藍染めだけでなく藍の栽培にも関心を持ってもらって、より多くの協力を得ていきたいと考えています。



3. ブドウの収穫と販売



ユニバーサル農業の実践の場「風の森ファーム」で栽培しているブドウが今年も収穫の時期を迎えました。今年は土壌調査に基づいて追肥をしたり、枝の剪定や果実の摘果も念入りに行う等、管理を十分に行ったので、糖度の乗った甘くておいしいブドウができました。8月末～9月に、たわわに実ったブドウの収穫を行いました。今年は販売して欲しいという要望にお応えして、受注販売を行いました。プラスチック容器へのパッキングやラベル等の作業は、利用者さんも参加しました。今後は、ブドウの品質向上、栽培面積の拡大や、販売先の開拓等をしていきたいと考えています。

4. シイタケの栽培

今年の春ごろからシイタケの試験的な原木栽培を始めました。今回は原木（クヌギの木）を地域で原木シイタケを栽培している方から購入して、栗の木の木陰で試験栽培をしています。今後は空きハウス等を使って栽培面積を拡大していきたいと思います。



また将来的には、地域の里山管理と組み合わせて原木の調達やシイタケ栽培を広めて里山の保全活動としても考えていきたいと思っています。

5. アンケート結果の紹介

現状調査の一環としてアンケート調査を実施しました。①ユニバーサル農業の認知度や関心度調査、②村松地区の農家の実態調査を行いました。その結果、「ユニバーサル農業」の認知度は比較的高いことがわかりました（知っている/聞いたことがある=42%、興味を持っている=71%）。今後の関わり方については、話を聞いてからが半数以上でした。また農家調査の主な結果は、農家の高齢化が進んでいることや（60歳以上が82%、70歳以上が41%）、後継者不足が顕著でした（後継者ありが15%のみ）。あと何年農業を続けるかについては、10年以上続けるは20%のみで、50%近くがもうやめたい、あるいはもうやめている（貸している）状況でした。

今月のコラム：「農業」と「福祉」と「地域」

日本の農業は全国どの地域においても、営農者の高齢化や後継者不足の問題を抱えている。日本の農家の平均年齢は約67歳で、65歳以上の農家が農業者全体の65%にも及ぶ。この高齢化の原因として挙げられるのは後継者不足であり、将来の担い手がいないことは深刻な問題となっている。さらに、今後高齢農業者のリタイアに伴って、耕作放棄地や荒廃農地が増加することも危惧されている。

一方、障害者の雇用機会や賃金の現状を見てみると、障害者の就労支援のしくみとしては、就労継続支援事業（A型、B型）等がある。B型の場合は、比較的簡単な軽作業を行うような就労訓練である。しかし、平均工賃は約14,800円/月（H28年厚労省資料）であり、十分な額とはいえない。さらに、「風の森」のように比較的重度の障害のある利用者の場合は、就労することがより難しく、ゴム製品のバリ取り等の各種受注作業を行っているが、得られる工賃は10,000円/年と非常に低い。

こうした状況の中で、ユニバーサル農業の実践を通して地域の中でつなぐことで、「農業よし」「福祉よし」「地域よし」の三方良しのつながりができれば、と考えています。

このプロジェクトに皆さんが関心を寄せていただき、ご協力していただければと思います。皆さんのご意見やご感想をお待ちしています。

（メール連絡先：universal.agr.2018@gmail.com）